

地質学雑誌オープンファイル掲載規定 (平成 15 年 1 月 1 日施行)

1. 地質学雑誌オープンファイルは、日本地質学会がその著作権を保有する著作物の一部をなす印刷可能な電子ファイルであり、日本地質学会ホームページにアクセスできる全ての読者に対して無償で配布されるものとする。従って、主体をなす地質学雑誌に掲載された主著作物と同一の著作者、表題、発表年、掲載雑誌巻号とともに、別途指定されたオープンファイル番号と付図 (Figure)、付表 (Table)、図版 (Plate) 番号等により表示される。
2. 内容が以下の条件の全てを満たすと地質学雑誌編集委員会が判断するものについて、日本地質学会は、これを地質学雑誌オープンファイルとして日本地質学会ホームページ上の定められた場所に掲載することができる。
 - a. 日本地質学会員を含むインターネットからのアクセスに対し公開することに一定の価値・意義が認められること
 - b. ある程度以上まとまった量からなること
 - c. 調査・実験・解析・計算等の一時データや事実の記載等、著者等の判断や議論の含まれないものであること
 - d. 掲載予定論文の成立に不可欠ないし非常に重要な補助的情報であること
 - e. 事前・同時に他所で公表して引用することが困難な内容と認められること
3. 著者の提出するデータは、これが一部をなす投稿原稿の編集の際に地質学雑誌オープンファイルとしてオープンファイルデータ投稿カードとともに指定された形態で提出し、地質学雑誌編集委員会は当該投稿原稿の受理をもってオープンファイルでの掲載の適当・不適当を決める。
4. 受理されたオープンファイルデータは、地質学雑誌編集委員会の指示する電子ファイル形式にし、署名した著作権譲渡等同意書とともに提出することとする。地質学雑誌編集委員会は、提出された電子ファイルを PDF ファイル等に変換し、その表示内容について著者に確認を得た上で、ホームページ上の定められた場所に掲載する。
5. 編集委員会は、ホームページに掲載された PDF ファイル等により表示されるオープンファイルについて、著者からの申し出による場合を除いて、その内容の改編は一切行わないものとする。ただし、内容の改編を伴わない表示形式等の変更と掲載中止の判断は自由に行えるものとする。
6. ホームページへの掲載が決定した地質学雑誌オープンファイルは、掲載時にのみ著者の実費負担により別刷りを印刷することができる。

地質学雑誌特集号刊行までの手順 (平成 19 年 6 月 9 日一部改正)

1. 地質学雑誌の特集号の企画は、特集号を構成するすべての論文 (論説・総説等) の原稿 (および口絵) の確認後に、特集号の趣旨 (意義・目的など) や経緯、構成等に言及した前文 (印刷時 1 ページ以内) ならびに必要事項を書いた「特集号申込書」を、特集号の代表世話人が、編集委員会に提出 (郵送あるいは電子メールによる) することで、随時受け付けるものとする。代表世話人もしくは論文著者は、受け付け後直ちに、投稿規定に従って電子投稿・査読システムもしくは郵送により原稿を投稿する。
 2. 編集委員会では、すべての原稿の投稿が確認された段階で、担当の編集幹事や査読者等を決める。個々の論文の査読は、原則として通常の論文の場合と同じ扱いで行う。査読者には、論文の原稿とともに、特集号の前文及び「特集号申込書」を添付し、特集号の中の論文であることや、全体の構成について査読者にわかるようにする。
 3. 掲載不可と判断された論文については、そのことを代表世話人に連絡し、特集号から外してもらい、掲載不可と判断された論文が多数ある場合は、特集号として縮小再編するか、あるいは特集号を止め個別論文とするかなどを代表世話人に再検討してもらい、
 4. 特集号の掲載時期は編集委員会が決めるが、原則として最も受理の遅い論文の受理日を基準にするものとする。
 5. 年間総ページ数や一般投稿論文へのしわ寄せを防ぐために、1 特集号あたりの総ページ数の上限を原則 80 ページ以内とし、最大でも 100 ページを越えないものとする。
 6. 希望する場合には、特集号に関連した口絵をつけることができる。原則 2 ページで、4 ページを越えないものとする。
 7. 編集委員会独自の判断で、特集号を企画・立案する場合もある。
 8. なお上記手順については、必要に応じて修正を行うものとする。
- 注 1 : 「特集号申込書」には最低限以下の項目について記述するものとする。
1. 特集号タイトル
 2. 特集号世話人氏名
 3. 代表世話人と連絡先 (所属先、電話、FAX、e-mail 等)
 4. 本特集の趣旨 (意義・目的) ・経緯 (前文を簡略化したもの)
 5. 特集号の構成 (個々の論文の著者とタイトルおよび見込み印刷ページ数)
 6. 総印刷ページ数 (見込み、原則として 80 ページ以内、最大でも 100 ページを越えない)
 7. 口絵の有無 (有る場合はそのタイトル、著者とページ数、原則 2 ページ、最大 4 ページ)
 8. その他 (世話人から編集委員会へのコメント)